

Title	大庄屋三木家所蔵懷徳堂関連資料の寄託受け入れについて
Author(s)	
Citation	懷徳堂センター報. 2005 P.181-P.182
Issue Date	2005-02-28
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/24374
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

大庄屋三木家所蔵懷徳堂関連資料の寄託受け入れについて

懷徳堂センター

播磨国辻川(現・兵庫県福崎町西田原辻川)の三木家は、辻川組二十一カ村の大庄屋を務め、一時は山崎組十九カ村の大庄屋も兼帯した名家である。辻川三木家の六代当主である通明(一七八二〜一八四四年)は中井竹山や股野達軒らに学び、七代当主の通深(一八二四〜一八五七年)は並河寒泉や林聖禪らに学んだ。三木家には現在もお膨大な資料が伝えられているが、民具や古文書のみならず大量の漢籍や和書も残されていることは、同家の好学の気風をうかがうに足るのである(福崎町教育委員会『三木家住宅文献・民具目録』一九九九年などを参照)。なお、民俗学者の柳田国男が幼時に三木家へ預けられ、八代当主通済(一八四八〜一九〇一年)のもと、その大量の蔵書を読みふけていたことは有名である。

通明および通深が懷徳堂に学んでいた関係から、三木家の蔵書の中には懷徳堂に関わる資料も多く含まれている。三木家所蔵の懷徳堂関係資料としては、中井竹山・桐園・並河寒泉らといった懷徳堂関係者の著書や書軸、書簡などが挙げられるが、特筆すべきは、通深が懷徳堂に遊学した際に作成した多数の鈔本であろう。通深が懷徳堂に滞在していたのは天保十二年(二八四一年)の後半、わずか半年ほどにすぎないが、桐園や寒泉はこの「神童」の帰郷に際し、幾種もの送序や跋を贈っている(すべて三木家に現存)。

財団法人懷徳堂記念会では以前より、三木家に対して懷徳堂関連資料の

購入あるいは寄託について交渉を持ち、受入後の保管場所については大阪大学総合学術博物館とも折衝してきた。しかし様々な事情により長い間、これら資料にかかわる受入交渉は決着をみなかったのである。

二〇〇二年、財団法人懷徳堂記念会の囑託研究員制度廃止にともない、財団法人懷徳堂記念会が従来保有していた調査研究機能の一部が大阪大学大学院文学研究科懷徳堂センターへ移管された。あわせて同センター室が開設され、わずかながら独自の収蔵スペースを確保できたため、貴重資料の新規受入が現実的なものとなった。

大阪大学の独立行政法人化が完了した二〇〇四年、懷徳堂センターから三木家に対して、関係資料を寄託していただきたい旨の希望をあらためて申し入れた。数次に及ぶ交渉の結果、幸いにも十代夫人三木美子氏および十一代当主三木雅雄氏のご理解を頂戴し、同年九月九日には三木雅雄氏と本研究科長との間に三年間の無償寄託契約(二〇〇七年八月まで)が締結され、資料は本センターへと搬入された。

三木家のご厚意に対して御礼を申し上げるとともに、寄託に至る経緯を記して明らかとする次第である。

さて、今回寄託をいただいた資料は書簡・書籍・書画など百数十点に及び、

